

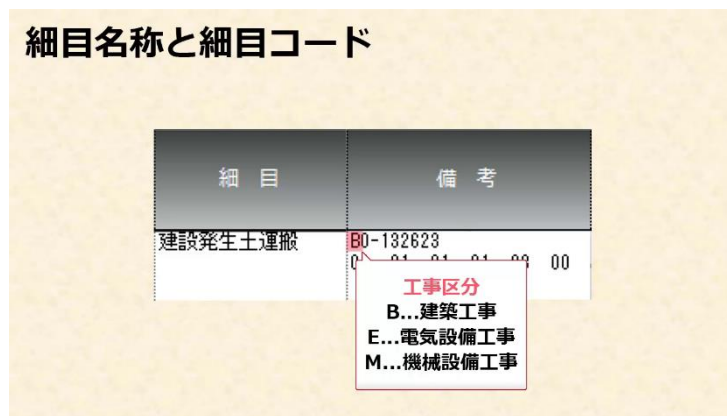
1.概要

①細目コードと細目名称、細目分類

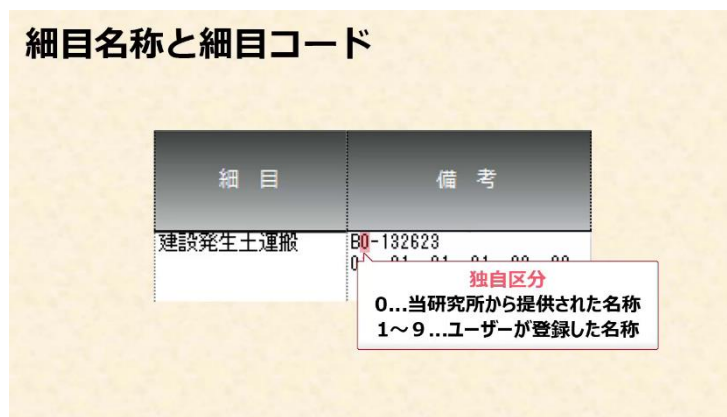
備考欄の上段は、細目コードで、細目名称に割り振られたコードです。



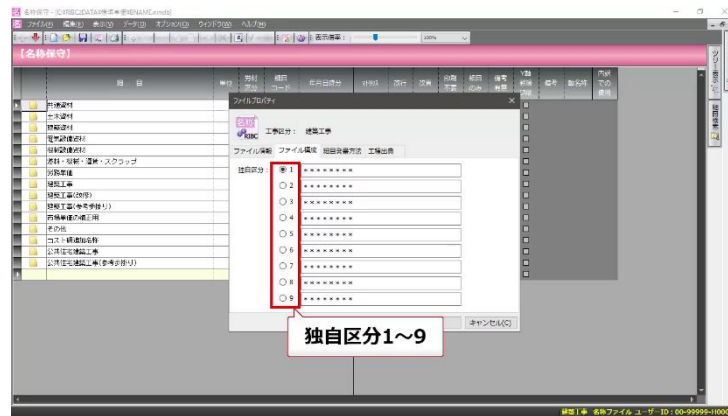
一桁目が工事区分で、
Bが建築工事、Eが電気設備工事、Mが機械設備工事を表しています。



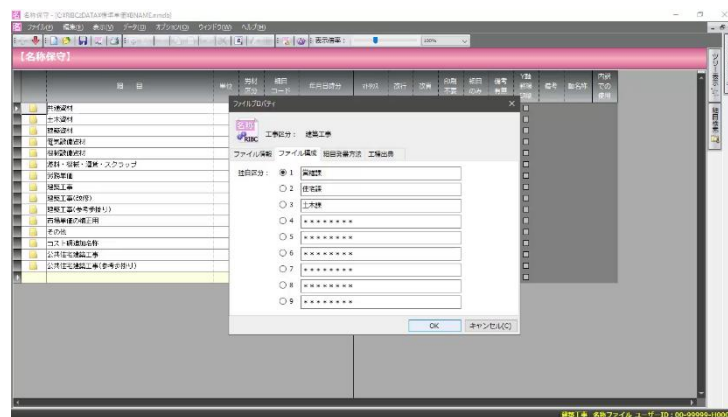
二桁目が独自区分で、
0が当研究所から提供された名称で、
1から9は、ユーザーが登録した独自名称を表しています



独自区分の1から9は、
名称ファイルのファイルプロパティで設定した独自区分が適用されます。



例えば、独自区分、1が営繕課、2が住宅課、3が土木課というように設定することができます。
部署が複数ある場合等、部署毎に独自区分1~9を割り当てることで、細目コードの重複を防止することができます。
なお、独自区分、1~9においては、ユーザー側で、名称の登録・修正・削除等を行ってください。

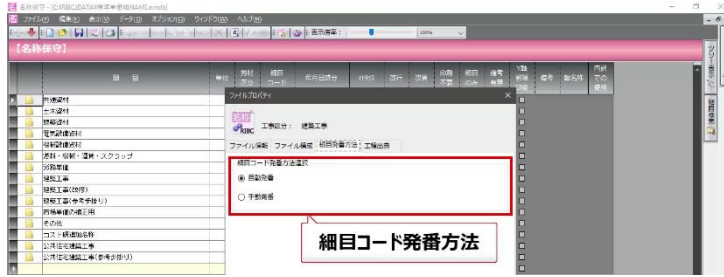


ハイフン以降の6桁がコード番号で、
000000 から 999999 の番号を割り振ることができます。

細目名称と細目コード

細目	備考
建設発生土運搬	B0-132629 01 00 00 03 00 コード番号

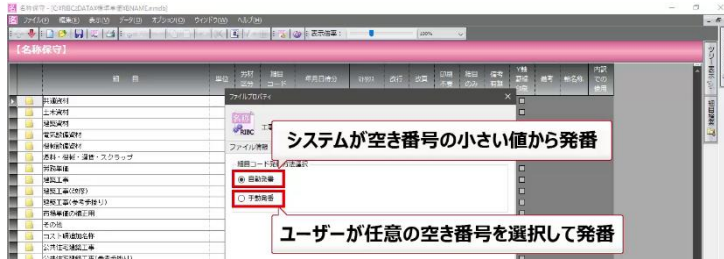
コードの発番方法ですが、自動発番と手動発番が用意されています。



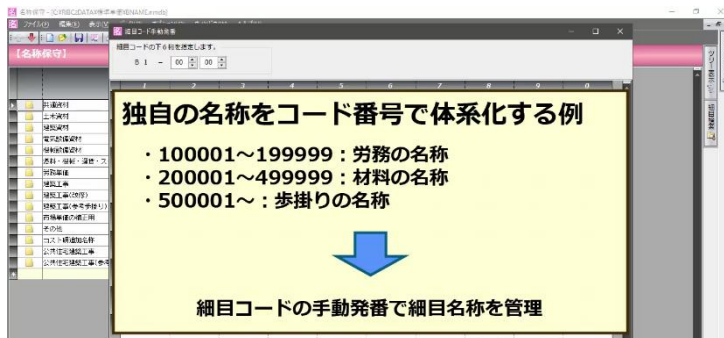
自動発番は、システムが空き番号の小さい値から順にコード番号を発番します。



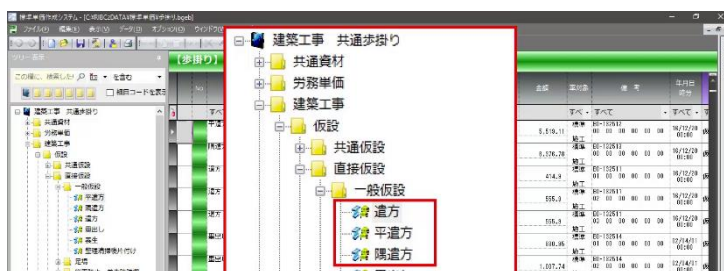
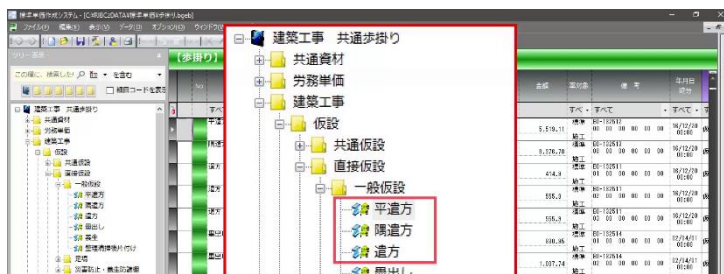
手動発番は、任意の空き番号を選択してコード番号を発番します。



独自の名称のコード番号を体系化したい場合は、手動発番でコード番号を発番してください。



なお、細目コードの表示順序は、コード番号に縛られることなく、名称ファイルで、自由に並べ替えることが出来ます。



また、細目名称とは別に、細目分類を登録することができます。



細目分類とは、細目名称を分類して収める場所で、複数の細目名称を、仮設や配管工事といったような、関連のある場所に集めて保存することにより、細目名称の管理がしやすくなるほか、ツリー構造で、最大6階層を持たせて管理することができます。

